

# Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 全産業活動指数(2010年4月)

発表日2010年6月21日(月)

～改善傾向は継続～

第一生命経済研究所 経済調査部  
担当 エコノミスト 小杉 晃子  
TEL : 03-5221-4548

(単位:%)

		全産業活動指数											
		前期比		前年比		第3次産業活動指数		鉱工業生産指数		公務等活動指数		建設業活動指数	
08	7-9月	▲1.3	▲1.7	▲0.9	▲1.2	▲3.2	▲1.4	▲0.8	▲2.4	▲0.8	▲8.4		
	10-12月	▲2.7	▲5.0	▲1.7	▲3.0	▲11.3	▲14.5	0.6	▲1.1	2.7	▲0.9		
09	1-3月	▲6.3	▲11.1	▲3.1	▲6.6	▲20.0	▲34.6	0.2	▲0.3	▲0.5	▲1.1		
	4-6月	1.1	▲9.3	▲0.6	▲6.1	6.5	▲27.4	▲0.2	▲0.1	▲2.0	0.1		
	7-9月	1.1	▲7.0	0.6	▲4.7	5.3	▲19.4	0.1	0.7	▲6.2	▲6.4		
	10-12月	0.1	▲3.7	▲0.3	▲3.4	5.9	▲4.3	0.0	0.1	▲5.3	▲13.5		
10	1-3月	1.4	3.7	1.1	0.7	7.0	27.5	▲0.8	▲0.9	0.5	▲12.4		
08	10月	0.2	▲2.5	0.0	▲1.6	▲3.4	▲6.6	0.6	▲1.4	1.2	▲1.3		
	11月	▲2.1	▲6.1	▲0.9	▲4.2	▲7.0	▲16.5	0.1	▲0.1	0.3	▲1.5		
	12月	▲2.5	▲6.3	▲1.7	▲3.3	▲8.4	▲20.7	0.1	▲1.8	0.6	0.0		
09	1月	▲1.3	▲9.0	▲0.1	▲4.5	▲8.4	▲30.9	▲0.2	▲1.0	▲0.7	▲1.5		
	2月	▲3.7	▲12.5	▲0.7	▲7.4	▲8.6	▲38.6	0.3	0.8	▲0.1	▲1.1		
	3月	▲1.0	▲11.7	▲3.4	▲7.7	2.2	▲33.8	0.2	▲0.8	▲0.5	▲0.9		
	4月	2.4	▲10.0	2.0	▲6.2	4.5	▲31.0	▲0.6	▲0.9	0.2	0.9		
	5月	0.9	▲10.0	▲0.2	▲7.1	4.6	▲29.0	0.5	1.2	▲1.6	1.0		
	6月	0.3	▲7.9	0.2	▲5.1	1.5	▲22.5	▲0.3	▲0.8	▲2.5	▲1.3		
	7月	0.5	▲8.0	0.5	▲5.3	1.1	▲22.3	0.2	0.6	▲2.5	▲3.5		
	8月	0.0	▲6.3	0.2	▲4.1	1.5	▲18.3	▲0.2	0.4	▲1.5	▲6.5		
	9月	0.1	▲6.7	▲0.3	▲4.7	1.8	▲17.5	0.1	1.3	▲1.9	▲8.8		
	10月	0.2	▲6.1	0.2	▲4.4	1.5	▲14.4	▲0.2	0.5	▲1.0	▲10.5		
	11月	▲0.2	▲3.3	▲0.2	▲3.0	2.6	▲2.9	0.2	▲0.5	▲3.6	▲14.5		
	12月	▲0.3	▲1.6	▲0.7	▲2.7	2.6	6.4	0.2	0.3	▲0.4	▲15.3		
10	1月	3.4	1.9	2.9	▲0.1	4.3	18.9	▲1.3	▲0.3	0.7	▲13.9		
	2月	▲2.2	4.2	▲0.5	0.6	▲0.6	31.3	0.5	▲0.6	4.3	▲10.0		
	3月	▲0.7	4.9	▲2.7	1.7	1.2	31.8	▲0.1	▲1.6	▲4.2	▲13.2		
	4月	1.8	3.8	2.1	1.4	1.3	25.9	0.2	▲0.2	▲4.3	▲17.2		

(出所) 経済産業省「全産業活動指数」

## ○ 全産業活動指数：前月比+1.8%

4月の全産業活動指数は前月比+1.8%と、ほぼコンセンサス(同:+2.0%、レンジ:同+1.6%~+2.4%)通りの結果となった。企業部門を中心に第3次産業活動指数が改善したことや、鉱工業生産指数の改善傾向の持続などにより全産業活動指数は3ヶ月ぶりのプラスとなった。輸出、生産の回復や設備投資の持ち直しなどを背景に全産業活動指数は改善傾向が継続している。

内訳別にみると、プラスに寄与した指数は第3次産業活動指数(前月比寄与度:+1.36%ポイント)、鉱工業生産指数(同:+0.24%ポイント)、公務等活動指数(同:+0.02%ポイント)、マイナスに寄与した指数は建設業活動指数(同:▲0.20%ポイント)のみであった。

## ○ 鉱工業生産指数、第3次産業活動指数ともに改善

個別にみると、鉱工業生産指数は前月比+1.3%と前月(同+1.2%)に引き続きプラスとなった。アジア向けを中心とした輸出の回復や国内の設備投資の持ち直しを受けて生産は増産基調が持続している。

また、第3次産業活動指数も前月比+2.1%と、前月(同▲2.7%)から一転してプラスとなった。雇用・所得環境の持ち直しが緩慢なことや天候不振の影響などを受けて生活関連サービス、娯楽業などの家計部門の活動は悪化した。輸出、生産の回復や企業収益の持ち直しなどを背景に卸売業や情報通信業などの企業部門の活動が改善したことから、全体では3ヶ月ぶりのプラスとなった。

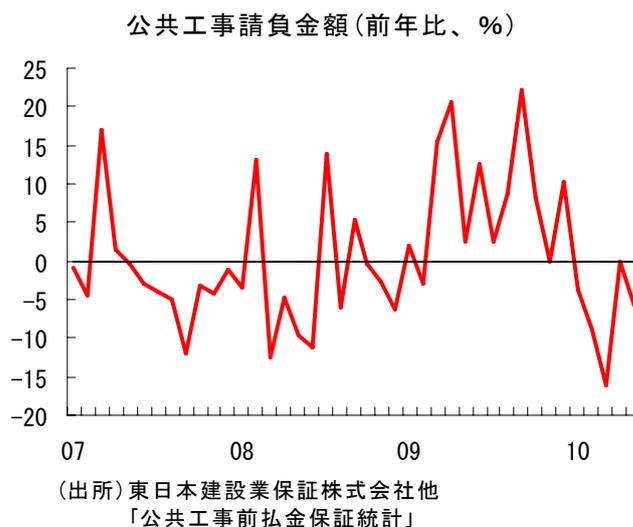
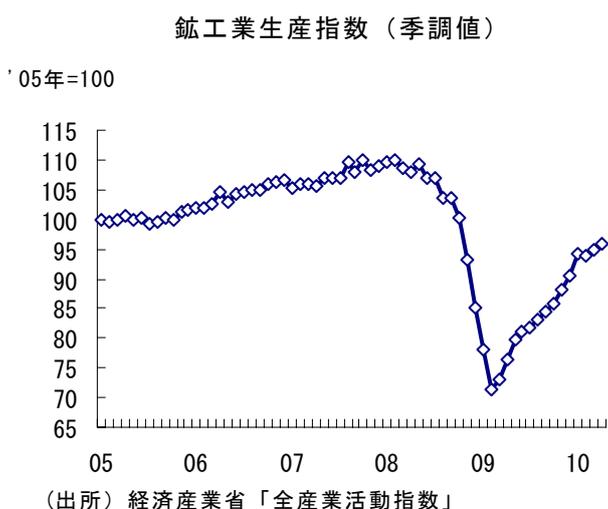
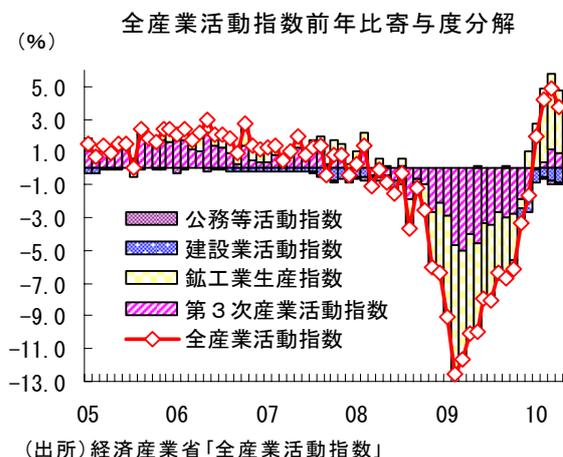
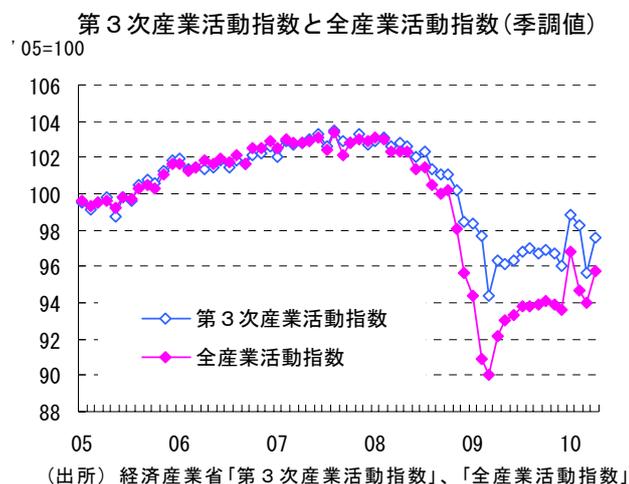
一方、建設業活動指数は前月比▲4.3%(前月同▲4.2%)と、前月に引き続きマイナスとなった。特に、公共・建設・土木活動指数は同▲6.9%(前月同▲4.1%)と、前月を上回るマイナスとなっている。09年度一次補正予算執行停止の影響による公共投資の減少などが影響していると考えられる。公共事業の発注段階の動向を示す公共工事前払金保証統計の推移をみても、足もとで公共工事請負金額は減少傾向が継続しており、今後も公共投資は低調な推移が続く可能性が高い。

### ○ 先行きも輸出や生産の回復に伴って、当面、改善傾向が続く見通し

全産業活動指数の先行きを展望すると、第3次産業活動指数は、今後は景気回復に伴って雇用・所得環境が緩やかに回復していくと見込まれることに加え、各種家計支援策による下支え効果などにより個人消費の改善基調が続くと予想されることから、家計部門は緩やかな改善が見込まれる。さらに、企業部門も企業収益や設備投資の持ち直しを通じて、今後は緩やかに回復していくと見込まれる。そのため、全体では緩やかな持ち直し傾向が継続しよう。

鉱工業生産指数は、足もとで増勢は鈍化しつつあるが、今後もアジア向けを中心とした輸出の増加基調が続くことで、当面、堅調な推移が続くだろう。

以上を踏まえると、全産業活動指数は輸出や生産の回復に伴って、当面、改善傾向が続くと予想される。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。